

かしこく
やさしく
たくましく

直方第三中学校 学校だより
文責 校長 坂田幸則

令和7年3月21日 最終号

「3年生を送る会」「卒業証書授与式」

◇「3年生を送る会」3月6日(木)3.4校時

巣立ちゆく3年生へ、1・2年生からの感謝の気持ちを込めて、「3年生を送る会」を行いました。まずは、1・2年生からくす玉メッセージとコサージュの贈り物、生徒会執行部からは、三中クイズがあり、大変盛り上がりました。そして、心温まる「卒業ビデオ」のプレゼント。

終了後は、自然と3年生から大きな拍手が起こりました。皆、感謝と満足に満ち溢れた表情をしていました。

最後に、卒業式に参加できない1、2年生のために、3年生が「大地讃頌」の合唱を聴かせてくれました。歌っている表情からは、「1、2年生のみんな。三中を頼んだぞ」という力強いメッセージが感じられました。※写真(上) メッセージの頭の文字を左から読むと「栄光」になります。

◇ 第18回「卒業証書授与式」

朝夕の寒さが残る3月7日。本校3年生122名が通い慣れた学び舎を巣立っていきました。卒業生の表情には、それぞれが3年間に対する感謝とこれから始まる新しいステージへの期待がにじんでいました。

直方市教育委員会 教育長 山本栄司 様をはじめ、PTA 会長 安永幸代 様、校区3小学校の校長先生方他、地域のご来賓をお招きして盛大に挙行することができました。式に参加した卒業生の態度も素晴らしく、最後の巣立ちの歌「大地讃頌」も圧巻でした。3年生諸君の今後の健闘を祈ります。



～学校長式辞より 抜粋～

今から15年前、皆さんはご家族に見守られ、祝福を受けながらこの世に生を受けました。しかし、今日を迎えるまでには決して平穏無事な毎日ではなかったはずです。中には、大きな病気やけがで苦しんだ人もいます。忘れてならないのは、皆さんは決して一人で大きくなったわけではなく、皆さんがここにいるのは、深い愛情と慈しみに満ち溢れた保護者の方々、ご家族やご親せきの皆様の存在があったからこそだということです。

江戸時代末期から明治維新まで活躍した、西郷隆盛という人を知っていますか。出身地の鹿児島県では大変有名な人物で、今でも地元では尊敬の念を持って語り継がれている一人です。その西郷隆盛が、人から揮毫(きごう 書道で書くこと)を依頼されると、必ず書いていた言葉があります。「敬天愛人」です。天を敬い、人を愛すると書きます。

天を敬うとは、人として正義を貫き、大いなる天(自然の摂理)に敬意を払い、大切にすることという意味です。人を愛するとは文字通り、他人を思いやり、愛しなさいということです。つまり、これを皆さんに当てはめれば、勉強でも仕事でも、自分の欲のためにするのではなく天を相手にせよ。そして人をすごく大切にしてください。ということです。

ぜひ、自分以外の人のため、社会のために役立つ人材に育ってほしいと思います。

次に、「自分を大切にする」ということです。自分の体は自分のものですが、「自分だけ」のものではありません。歴史上、人類は幾度となく飢饉に襲われました。絶滅するかもしれない危機的な状況に置かれたこともありました。

しかし、我々の祖先は、その時に確実に生き延びて私たちの命をつないでくれました。でなければ、我々は今地球上に存在していないのです。そして、この命を私たちの子孫へとつなぐなくてはなりません。互いに、命や体を大切にすること、これが人の幸せの大前提であることは誰もが疑わないでしょう。「自分を大切にする」ということは、自分だけの利益や、身の回りの一部の人たちだけが得をするようなことに力を注ぐことではありません。

自分らしさを自覚し、他人の人権を尊重しつつ、自分らしく輝くことができる人。自分の持ち味を生かし、より多くの人々が幸せになれるよう汗を流せる人。それが「自分を大切にする人」です。(後略)

◇保護者の皆様へ

令和6年度が間もなく終わろうとしています。1年間の温かいご理解とご協力ありがとうございました。これからも、生徒にとって「価値ある学校」、保護者の皆様にとっても「安心して子供を預けられる学校」を目指して来年度も本校職員一同、真摯に教育活動に取り組みます。今後ともよろしくお願いいたします。